
収まりきらない返歌

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「収まりきらない返歌

【著者名】

「じはんライス

【あらすじ】

彼女への返歌。400字設定にしたけど、つい収まりませんでした。。

また今年のクリスマスイブも一人きりだった。仏教徒だから葬式饅頭に線香立ててメリークリスマスなんてわけわからんことやつとる。ちーん（ナムナム）

そんなギャグ的にも気温的にも寒い夜、ケータイにメール。遠距離恋愛してる彼女からだ。

不思議とあたたかな気持ちになる。なんだろ？。この感じは。胸に広がるあたたかさ。オレの胸は灼熱になつた。太陽がギラギラ。気づけば、水着姿の彼女。オレはあまりに旨そうでよだれを垂らして汗をかいてる。

はつと気づけば、窓の外は雪。いかんいかん。妄想トリップしてた。童貞だからすぐにワールドに入つてしまつ。外に出てみた。冷たい。雪がしんしんと降る。オレがガキなら雪合戦しとる。おっさんなのでせんが。

ふとガキになつてもいいんじやないかと雪玉を作つてみた。二つ作つて雪の上に並べてきんたまなんてゆつてる。我ながら、精神年齢は低いな。

オレはケータイで雪風景を撮影した。電柱の電灯に照らされて幻想的だ。

オレはまたもや妄想の中、雪の中で彼女にいたずらをしていた。彼女の背中に雪玉を入れた。「いやん。冷たい」「かわいい声。興奮する」「どうね！」

雪はしんしんと降る。オレは写真を送信した。写真と一緒に気持ちが届きますように。

彼女は東京にいるけど、ここにいる。オレがどこにいてもここにいる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9270z/>

収まりきらない返歌

2011年12月28日23時45分発行